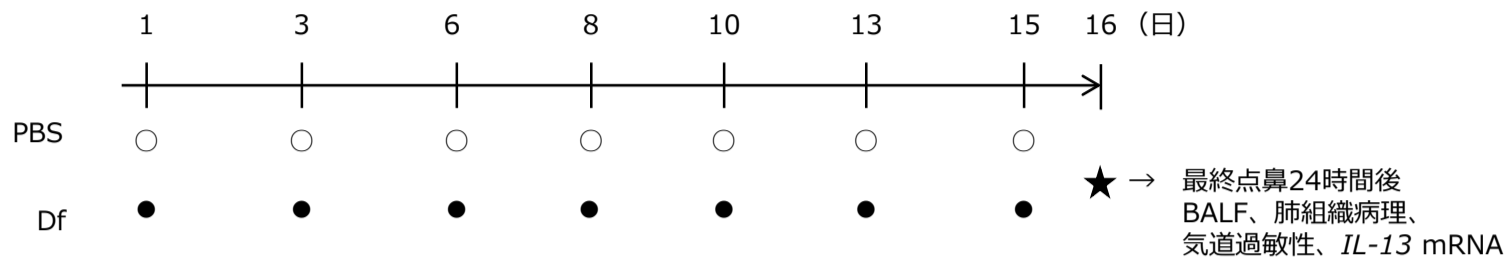


■ C57BL/6を使った喘息モデルマウスの作出に関する実験例

\* 武蔵野大学大学院 薬科学研究科 薬科学専攻 教授 山下直美先生よりご提供

図2-1. 免疫スケジュール

マウス：C57BL/6、♀、6-8週齢



ダニ (Df) 抽出物 (免疫用) を、総蛋白量として30  $\mu$ gを2ないし3日に1回、合計7回経鼻投与  
最後の経鼻投与から24時間後に、気管支肺胞洗浄液、肺組織病理、気道過敏性、肺におけるIL-13 mRNA発現を評価

気管支肺胞洗浄液中の細胞数・細胞分画

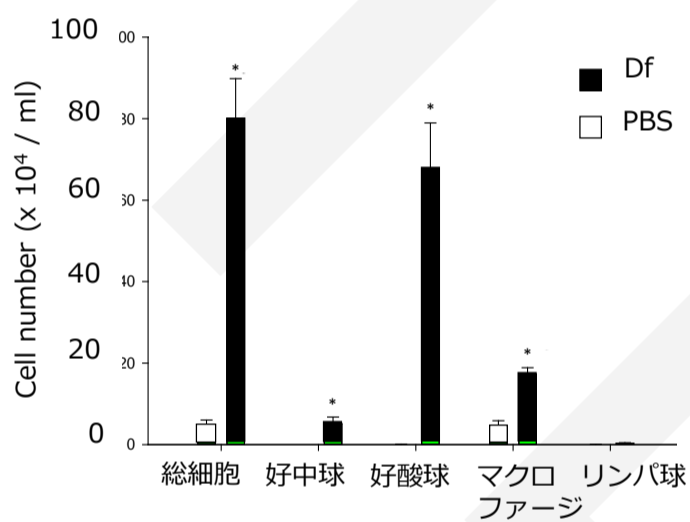


図2-2. Df投与群では、BALF中の総細胞数の有意な増加を認め、特に、好酸球数の増加が顕著であった。

肺気管支の病理所見

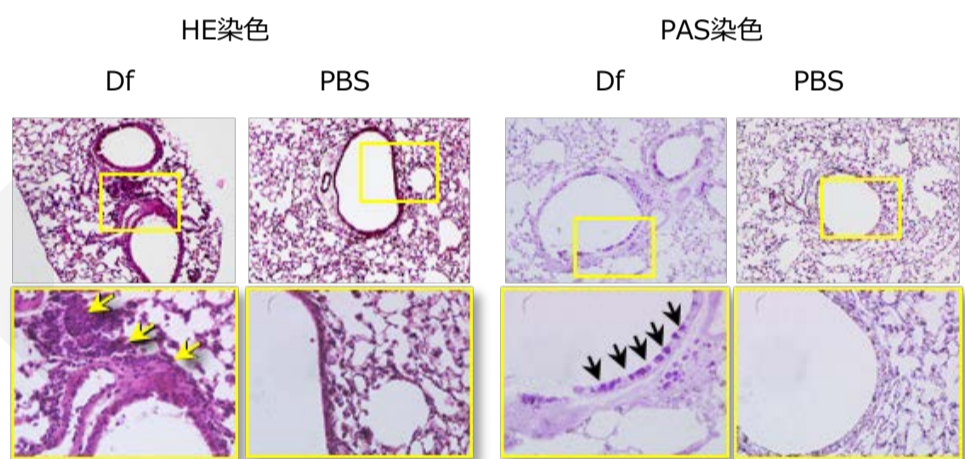


図2-3. Df投与群では、気道上皮下における炎症細胞の集積 (好酸球の浸潤) と粘膜上皮の杯細胞の過形成を認めた。

気道過敏性試験

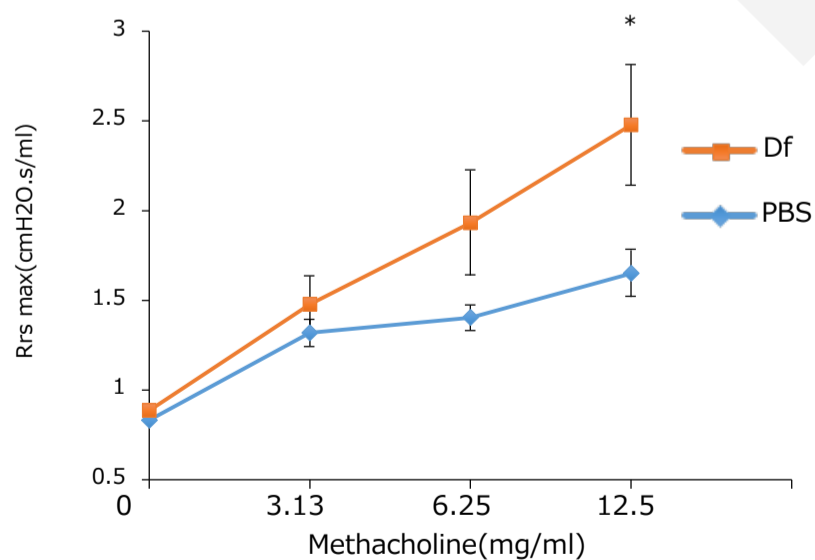


図2-4. Df投与群において、有意な気道過敏性の亢進を認めた。

肺組織におけるIL-13 mRNAの発現

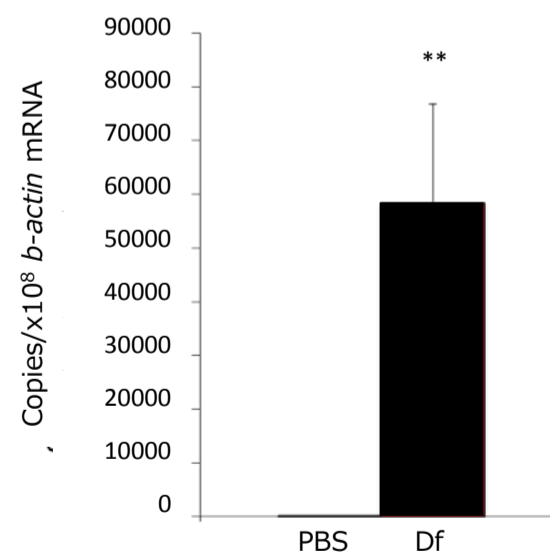


図2-5. Df投与群において、肺におけるIL-13 mRNAの有意な発現亢進を認めた。

実験環境、手技、マウスのコンディション等によっては同様の結果が得られない事があります。  
本プロトコールは指標としてご使用下さい。